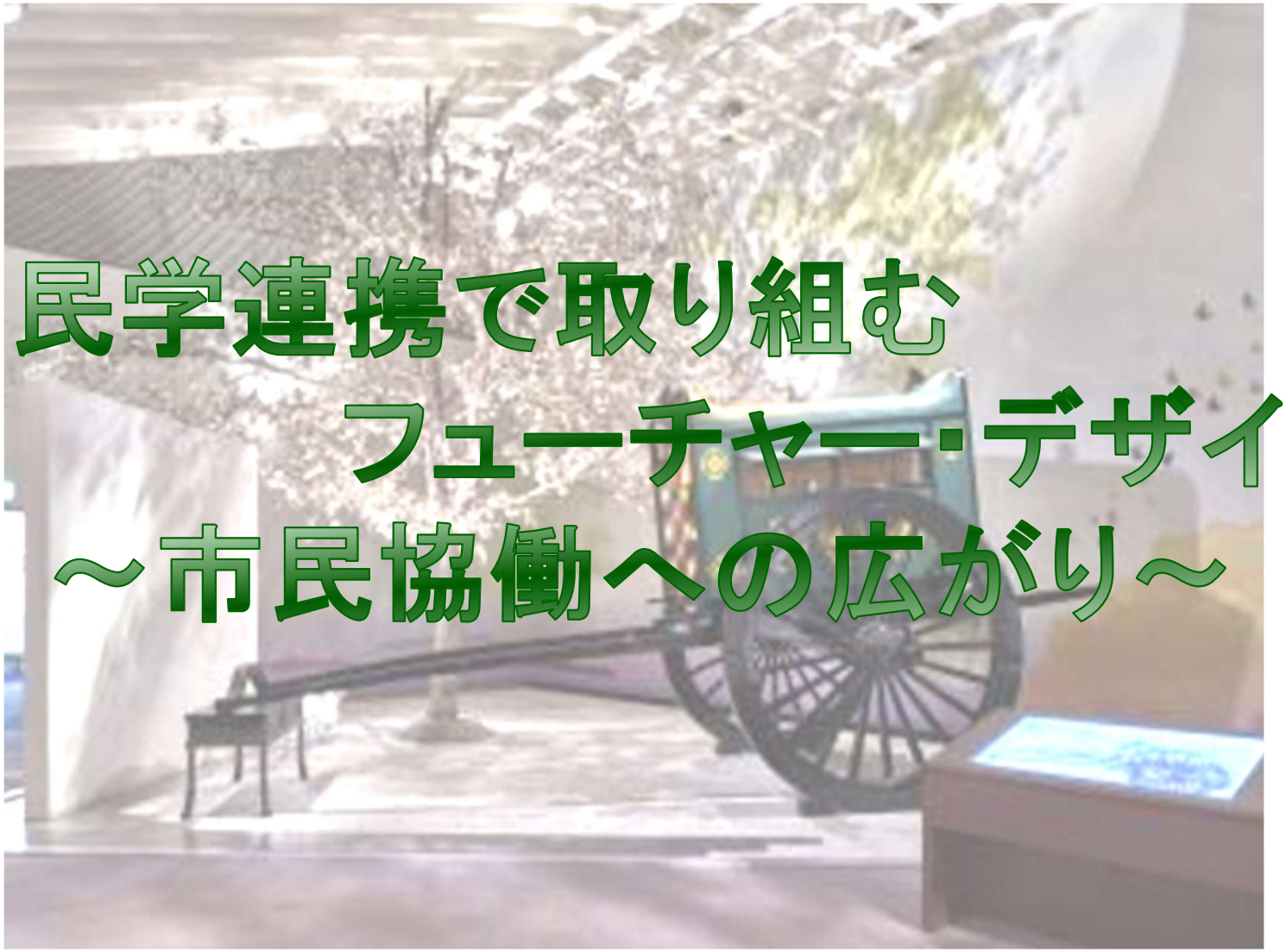
R2．1．25



官民学連携で取り組む
フューチャー・デザイン
～市民協働への広がり～

京都府宇治市産業地域振興部
文化自治振興課自治振興係　係長　杉本　隆之

宇治市概要

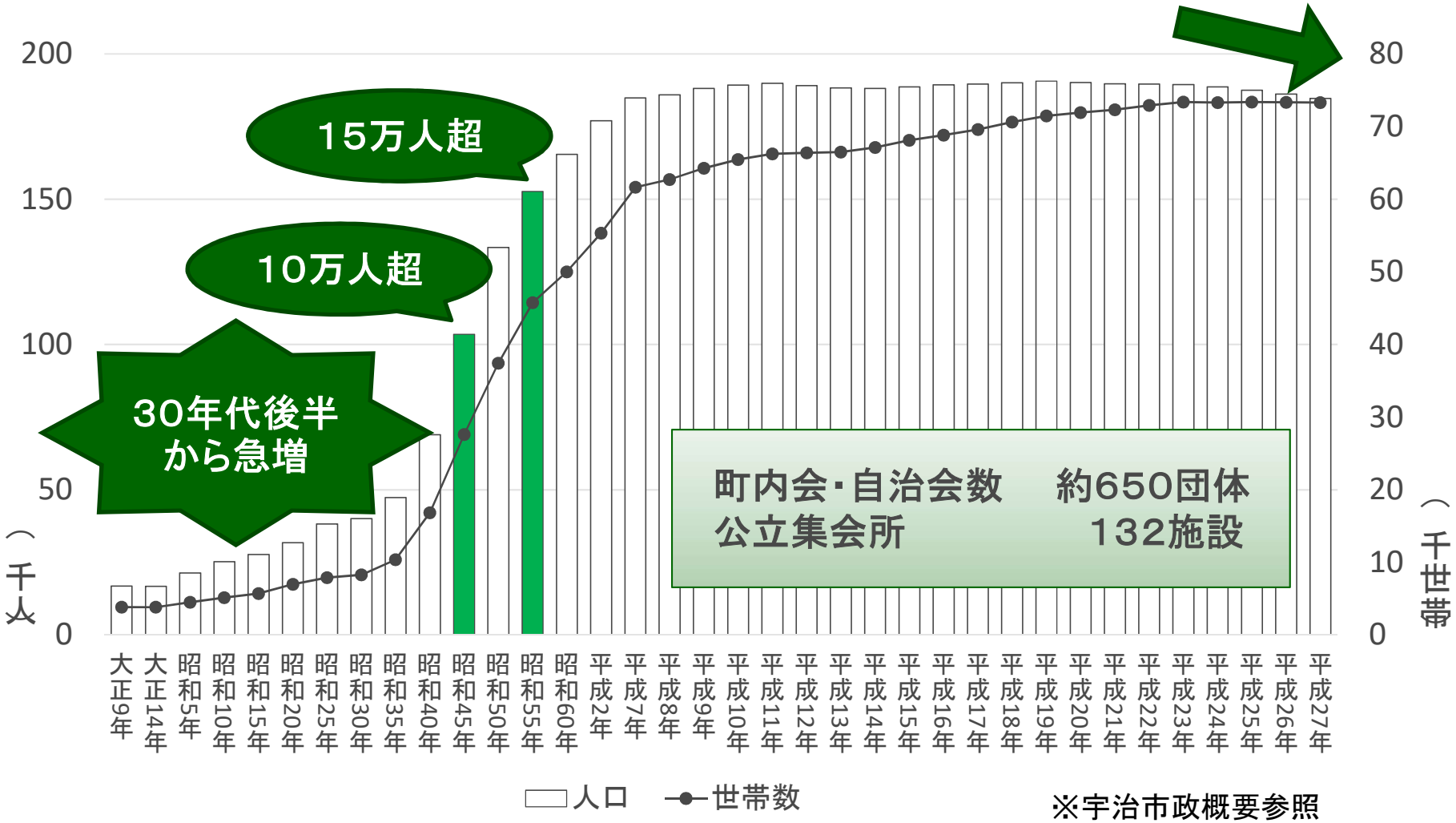
- 人口　　186，657人
- 世帯数　　83，759世帯
- 面積　　67．54㎢

（平成31年4月時点）

- 平均年齢　46．0歳

（平成27年国勢調査）

人口及び世帯数の推移



※宇治市政概要参照

地域コミュニティの役割

市民主体のまちづくり

自分たちの住んでいる地域

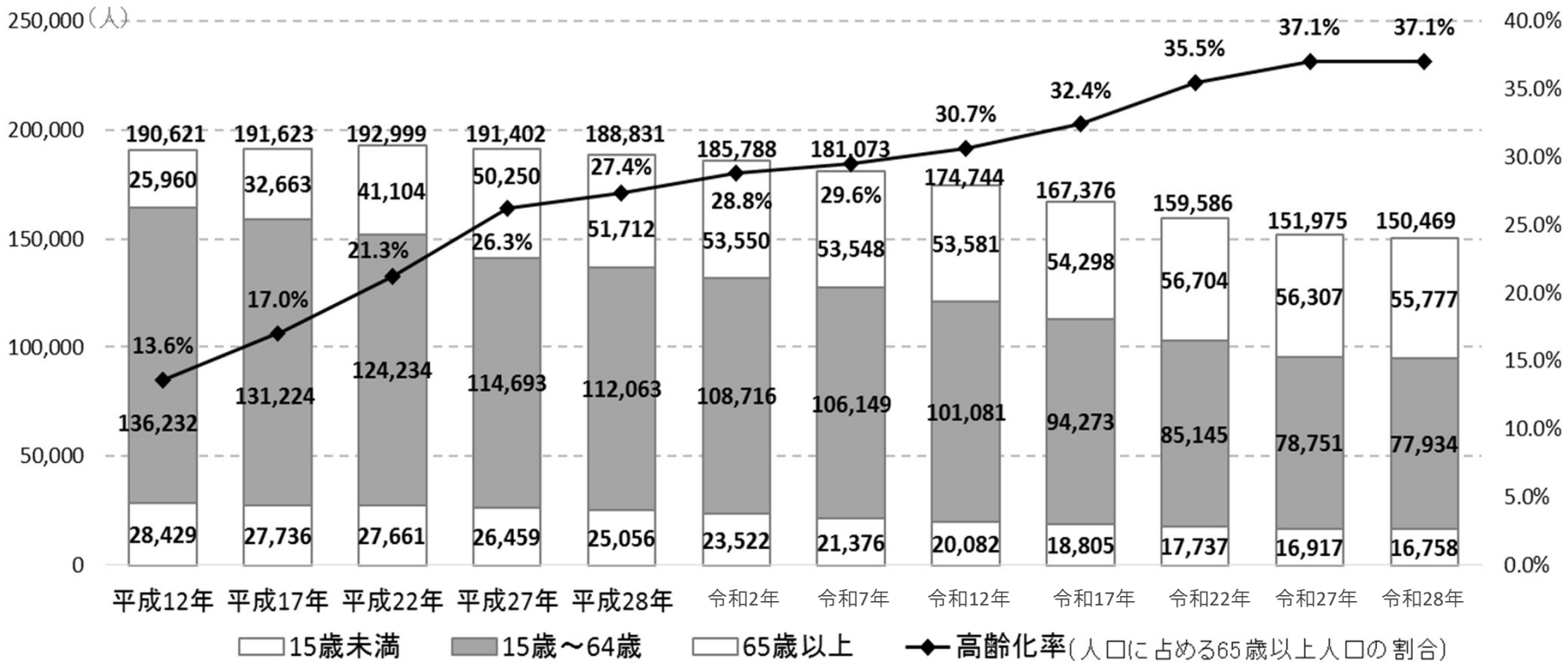
自分たちの手でより住みやすいまちへ

↓

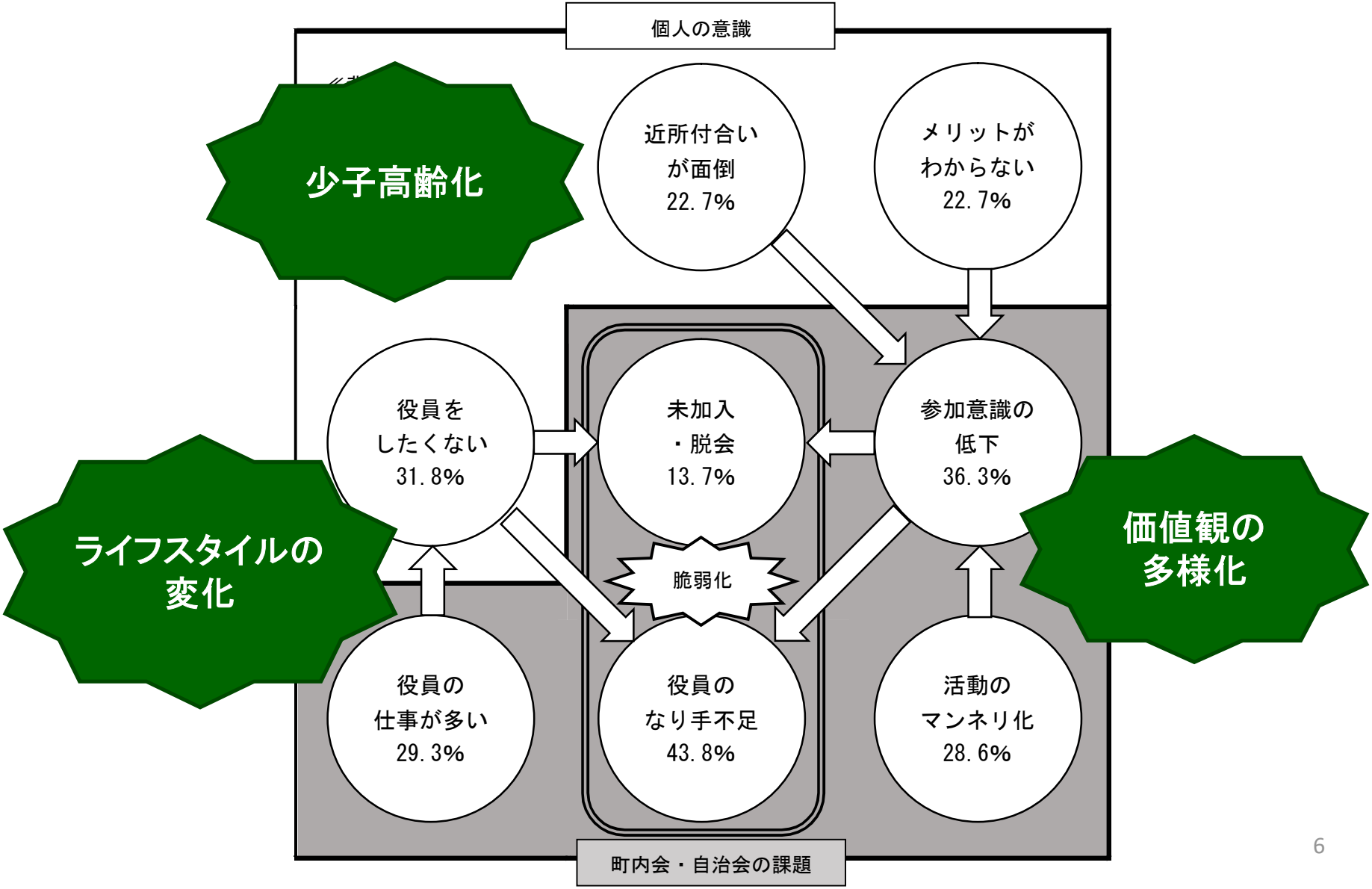
空間・拠点の整備

ハード面の支援に特化

年齢層別に見た宇治市の人口の推移
（実績と予測）



地域コミュニティの現状



これまでの経過

平成23年度～　町内会・自治会等活動推進検討委員会 設置

平成25年度～　地域コミュニティ推進検討委員会 設置

町内会・自治会の実態調査

平成27年4月　町内会・自治会の活性化の方策および

地域コミュニティ協働のあり方に関する提言

平成26年～　COC・ともいき研究（京都文教大学共同研究）

行政主導から市民協働へ

◇　従来型からの脱皮

◇　認識変革

平成29年度
「つながり・居場所・地域の未来」リレー講座

地域コミュニティを取り巻く多様な視点の獲得

第1回　総論と問題意識の共有

第2回　居場所と住まい・まちづくり

第3回　コミュニティ活動の工夫

第4回　多様な人々を受け入れる地域のあり方

第5回　地域コミュニティを考える

「フューチャー・デザインで考える
地域コミュニティの未来」

平成30年度　取組

①シンポジウム
②市民ワークショップ
⇒市民への広がり

かんがえよう これからの 地域の未来。

～未来の視点から考える宇治市の地域コミュニティ～

３０年後の宇治市には何が必要とされ、今、何を残していくべきでしょうか。今住んでいる地域は子どもたちのふるさとになっているでしょうか。

京都文教大学・高知工科大学・総合地球環境学研究所と共同し、未来の地域コミュニティについて考えます。

未来の視点から考えることで、現代の見え方が変わるかもしれません。

さぁ、一緒に私たちのまちの未来について考えてみませんか。

シンポジウム

日　時　2018.10. 8（月・祝）14：00－16：00

会　場　宇治市生涯学習センター　第１ホール

テーマ　地域コミュニティの未来を考えるシンポジウム

参加無料　定員 200 名 申込不要（先着順）

講 演：「フューチャー・デザイン」

講 師　西條　辰義 氏　総合地球環境学研究所特任教授 高知工科大学フューチャー・デザイン研究所所長

パネルディスカッション：「フューチャー・デザインで考える地域の未来」

コーディネーター　森　正美 氏　京都文教大学教授

ワークショップ（全４回）

日　付　2018. 10. 28（日）11. 23（金・祝）12. 15（土）2019. 1. 26（土）

会　場　宇治市役所　８階　大会議室

テーマ　地域コミュニティの未来を考えるワークショップ

対　象　全４回に参加できる方（詳細は裏面）

参加無料 クオカード進呈　要申込 詳細は裏面

ワークショップ：「フューチャー・デザインで考える未来の地域コミュニティ」

講 師　西條　辰義 氏　総合地球環境学研究所特任教授 高知工科大学フューチャー・デザイン研究所所長

中川　義典 氏　高知工科大学准教授

かんがえよう　これからの　地域の未来。

地域コミュニティの未来を考えるシンポジウム

Ⅰ．講演「宇治市の現状について」

Ⅱ．講演「フューチャー・デザイン」

Ⅲ．パネルディスカッション

「フューチャー・デザインで考える地域の未来」

＜参加者からの感想＞

- 現在から将来を予測するのではなく、未来より現在を考える斬新な考え方が気に入った
- 目先のことだけにとらわれすぎている自身を見直すきっかけとなった
- 市全体を空から見て考えるような大きな視点が必要だと思った

参加者

約100名

地域コミュニティの未来を考えるワークショップ

【開催形式】　全4回（講演等＋グループ討議）
【参　加　者 】　事前申込制（在住・在勤・在学）
【開催案内】　市政情報誌、市ホームページ
【配布配架】　◆町内会・自治会
◆集会所管理者
◆地域活動団体（まちづくり協議会、民生・児童委員）
◆小・中学校
◆公共施設等
【研究協力】　クオカード500円／回

地域コミュニティの未来を考えるワークショップ

【参　加　者】　10代から70代までの男女
【グループ】　参加者４名・スタッフ２名（進行・書記）
【編　　成】　地域・年代

参加者
32名

参加者からの感想

- 30年後の未来を考えて、今、我々が何をすべきか考えることが出来た
- 今に生きるものの責任を学んだ
- 30年後にタイムスリップしてという発想は自分の中にはなかった
- 意識の変化を実感出来た
- バーチャルからリアルへの展開が出来た
- 目の前のことにとらわれないで議論できたことが面白かった

市民ワークショップ結果と成果

未来視点での議論

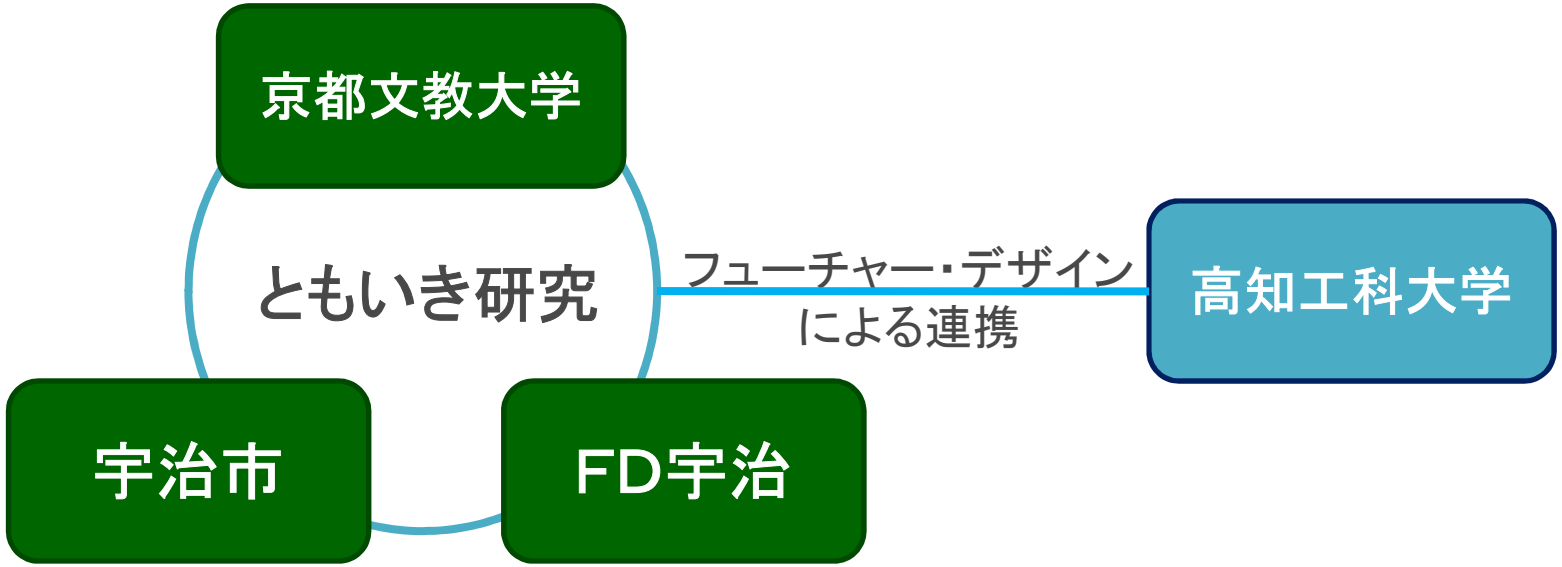
→友好的で発展的な議論が可能

→課題を自分ごととして捉えられること
　で主体性を発揮

市民有志活動への広がりへ
　市民団体「フューチャーデザイン宇治」発足

令和元年度　取組

- シンポジウム　→　市民への広がり
- 職員研修　　→　市職員への広がり



官民学が連携した取組

シンポジウム
「フューチャー・デザインで考える これからの地域コミュニティ」

Ⅰ．講演「フューチャー・デザイン　～自分たちで描く未来～」

高知工科大学　フューチャー・デザイン研究所　所長　西條 辰義 先生

Ⅱ．取組紹介

・フューチャー・デザイン宇治の取組紹介　市民目線での体験談・講演

・長野県松本市によるフューチャー・デザインの取組紹介

Ⅲ．パネルディスカッション

「フューチャー・デザインで描く地域コミュニティの未来」

＜参加者からの感想＞
・市民の取組の楽しさが伝わった
・小中学校でもFDを取り入れては？
・FDで多様な人と連携できそう

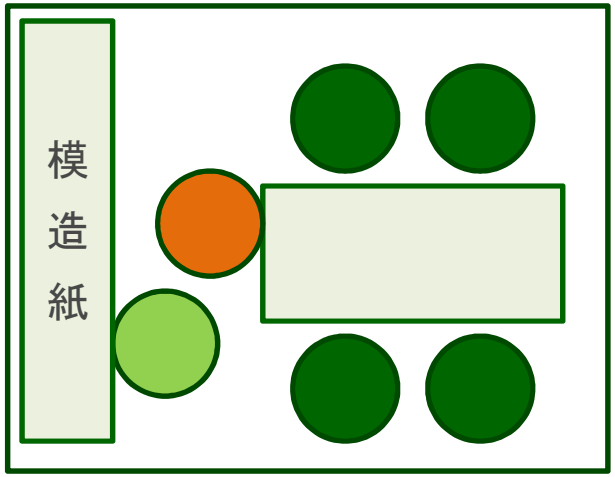
職員研修
「フューチャー・デザインで考える宇治の未来」

【目　　的】 既成概念にとらわれない持続可能な
施策立案・施策推進に必要な能力の向上

【 テーマ】 地域コミュニティの活性化

【対　　象】 採用後概ね3年～係長級の職員

【班構成】



:参加者（宇治市職員）

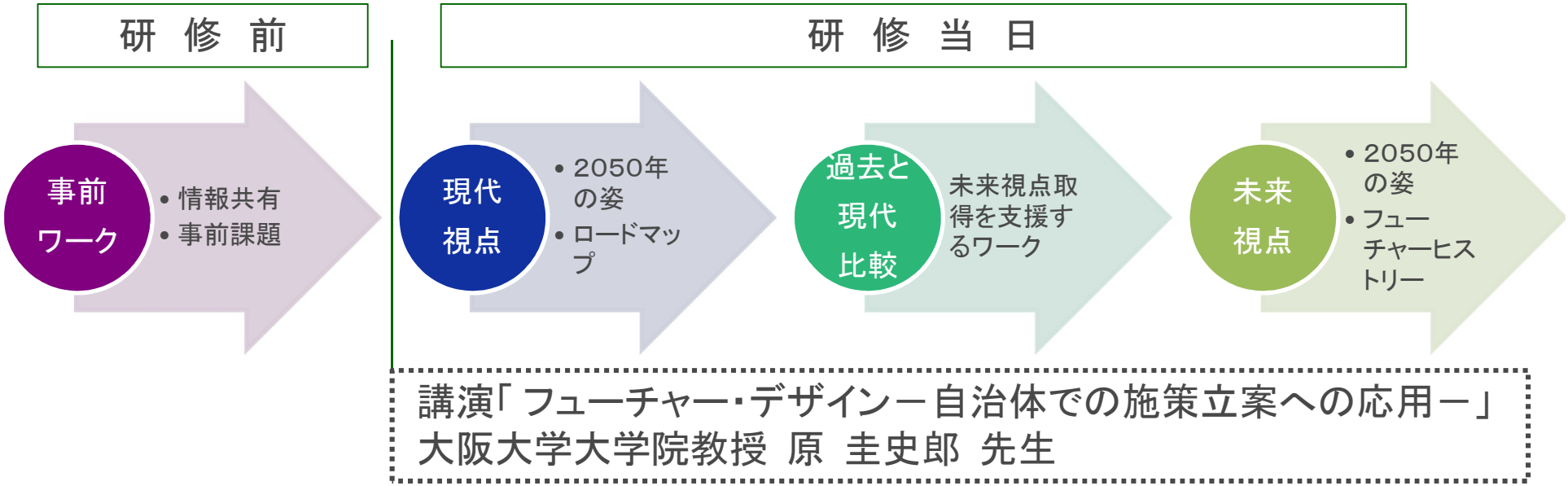
:アシスタント
京都文教大学 学生

:グラフィッカー
フューチャーデザイン宇治
文化自治振興課

参加者
28名

⇒市民・学生と協働し市職員への研修を開催

職員研修
「フューチャー・デザインで考える宇治の未来」
【研修デザイン】



現代視点と未来視点ではワークの構成を同じにし、
視点の違い（現代と未来）の差を明確にする構成とした。

職員研修
「フューチャー・デザインで考える宇治の未来」
【ワークショップ結果】

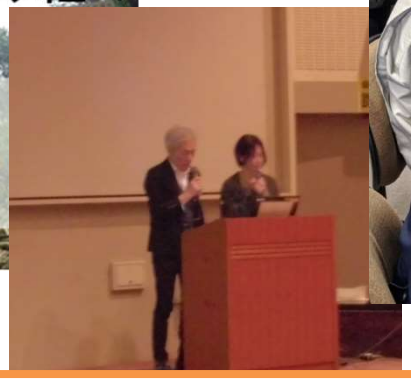
現代視点		未来視点
＜2050年の姿・施策＞ ボランティアに頼った地域づくり 市による地域リーダー育成 行政主導のまちづくり （行政による空家管理・情報提供など）	⇒	＜2050年の姿・施策＞ 地域ポイント報奨制度による地域づくり 地域リーダーによる地域運営 市民協働によるまちづくり （町内会の法人化・アプリによる情報発信等）
＜特徴＞ ・現在の課題に対する施策 ・現在の職場での課題の延長で思考 ・個別の意見が多い ・今の地域コミュニティに比較的近い	⇒	＜特徴＞ ・社会の変化を見据えた施策 ・肩書きや部局を超えた発想 ・他の意見につながるような意見多い ・働き方や学びの場など広い視野

未来視点
⇒ 多角的な視点での意見
⇒ 既成概念にとらわれない施策立案

＜考察＞官民学連携による取組

【シンポジウム】

学術的講演に留まらず、市民目線での講演があることでわかり易かったと高評価！

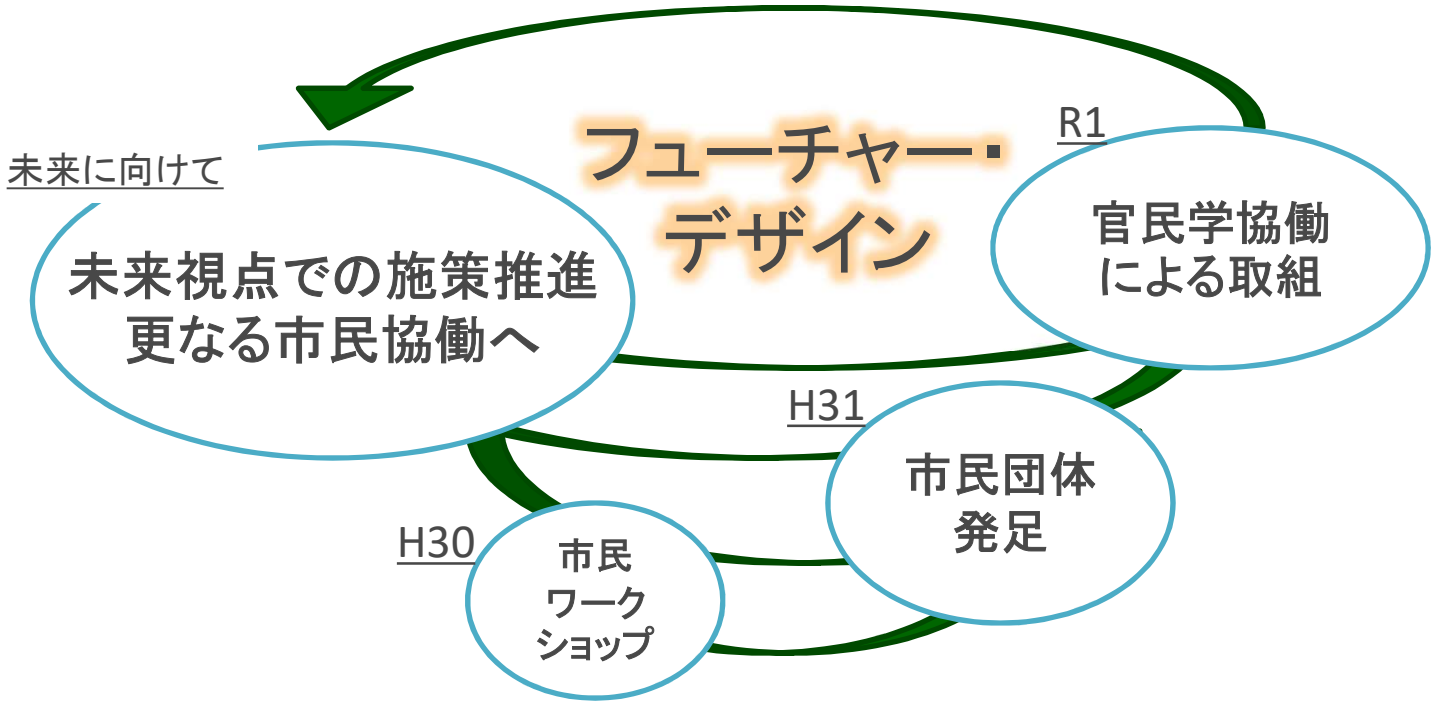


【職員研修】

市民・学生の多角的な視点が入ることで議論が活発に！

市民目線や多角的な視点により、取組への理解や議論が効果的であった

官民学連携によるフューチャー・デザインの可能性



＜官＞
政策立案
行財政運営

＋

＜民＞
多角的な
市民目線

＋

＜学＞
学術的・論理的
知見

3者の相乗効果により持続可能な未来づくりへ！

今後に向けて

＜市職員（庁内）へのFDの広がり＞

・人材育成や、政策運営を担う部局と連携した取組

・市全体（多分野）でFDを活用した市民協働の推進

＜市民へのFDの広がり＞

・市民ワークショップを展開

→対話による市民協働・市民主体のまちづくりを推進

官民学の連携（ともいき研究）による効果的な取組を実現

➡ 更なる市民協働を推進
地域コミュニティの活性化を促進